

伝統野菜の普及について研修

吹田市農業者研修会

吹田市農業委員会（吉田俊之会長）と農業会議は2月12日、吹田市・メイシアターで農業者研修会を開き、市内農業者など



大竹代表は江戸・東京野菜の普及に向けた取り組みを説明した

39人が参加した。

当日は、農業会議の沼田農政課副主幹が情勢報告。「都市農業・農地をめぐる情勢」と題して、新たな食料・農業・農村基本計画の策定及び計画内に位置付けられている「都市農業の振興」の記載について説明。あわせて「なにわの伝統野菜」認証制度について言及した。

続いて、江戸東京・伝統野菜研究会の大竹道茂代表が「伝統野菜には物語がある」江戸東京野菜の事例」と題して講演。

江戸・東京野菜については、当初は15品目程度であったが、大竹代表が地域住民と連携して品種を調べ上げた結果、現在は52品目に上っている。

また、野菜にはそれぞれ物語と普及の取り組みがあると説明。例えば、摂津の国から持ち込まれた葉ネギを江戸の農民が土寄せして生まれた根深ネギの歴史

市の支援を活用して農機導入

なりなりファーム・堺

「非農家出身のため、農機をゼロから揃える必要があった。市から支援を受けられて本当に有難かった」と話すのは、堺市の農地約15㍓でサツマイモやニンジンなど少量多品目の野菜を生産する「なりなりファーム・堺」代表の成田律子さん(50)。

営農開始にあたり、同市が担い手の経営計画実現や規模拡大などを支援するために実施する「堺ファーマー支援事業」のうち、新規就農者支援事業を活用

を学んだ小学生が、伝統的な根深ネギである千住ネギの栽培を経験した後、次の学年へ種を引き継ぐ「命をつなぐ授業」が行われている。このほかにも、地

これまで2度補助金の交付を受け、畝立て成型機、手押し式播種機、電動管理機を導入した。金融機関に長く勤務した律子さんは「自分の手でカタチあるものを作り出す仕事になりたい」と、令和3年に新規就農した。

会社勤めの夫・哲也さん(59)は、律子さんの力になりたいと休日を中心に農作業を手伝い、重機作業などを担うなど、夫婦で支え合いながら営農している。律子さんは「日常的に食べる野菜を環境へ負荷をかけずに生産したい」との想いから、主な作目で府のエコ農産物の認証を取得。また適正価格での販売に

域と連携した伝統野菜普及の取り組みについて紹介した。その後、NOSAI大阪から収入保険制度についての説明も行われた。(沼田)

向けて品質向上と効率化に取り組んでおり、補助金で機械化が進められてありがたいという。今後については「まず技術を磨き安定供給を目指す。その後は規模拡大や輸出にも挑戦したい」と展望を話す。(林佑)



「食べた人を笑顔にする美味しい野菜を作りたい」と話す律子さんと哲也さん

府農業施策に関する意見書概要

1. 土地生産性全国1位をめざす高収益農業の推進について
 - (1) 大阪農業を支える担い手の確保・育成
 - (2) 収益性の高い農業の実現
2. 府内産地への周遊促進と大阪産(もん)の利用拡大について

3. 地域の実情に応じた支援について
 - (1) 施設の管理省力化について
 - (2) 鳥獣害対策に係る府内市町村への支援等について

4. 国に働きかける事項

- (1) 地域計画のフォローアップに向けた推進体制の強化
- (2) 都市型農業の活性化に向けた国庫補助事業による支援の拡充
- (3) 新規就農者の拡大に向けた支援対象年齢の引き上げ

お詫びと訂正

令和8年2月1日発行の大阪農業時報2月号1面掲載の堺市・井ノ本恵理子氏の記事において、経営面積について誤記が

ありました。

井ノ本氏の経営面積について、「約33㍓」と記載しておりましたが、正しくは「約31㍓」です。お詫びして訂正します。